

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*小島信久氏の未確認天体確認の天体写真フィルム2枚を発見

国立天文台旧図書館で古い天体写真乾板が見つかり、2008年に発足した天文情報センターアーカイブ室でその整理を分担して行っている。筆者は旧図書館で発見される天体写真以外の雑乾板・フィルムなどの整理を引き受けてきた。

筆者が整理している雑乾板・フィルムには天体写真も含まれている。今回、発見された天体写真フィルムはコメットハンターとして知られた小島信久氏が1974年(昭和49年)5月24日に撮影されたブローニ版2枚の天体写真フィルム(写真1)である。

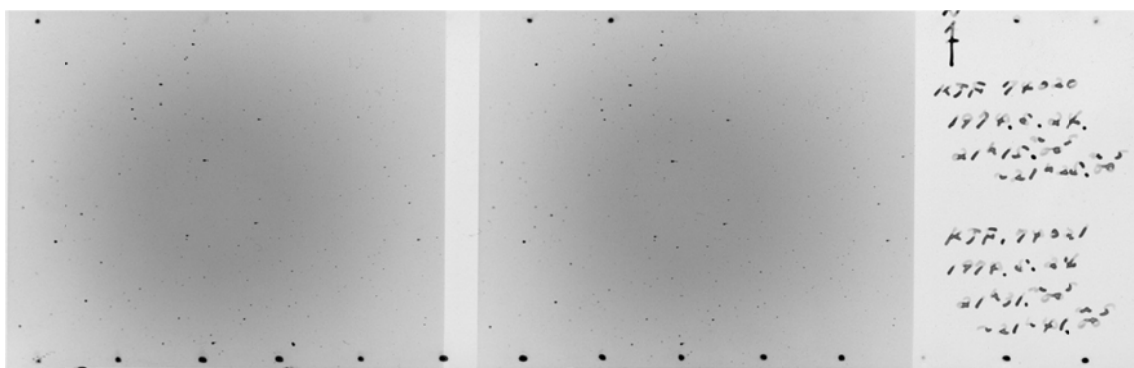


写真1 発見された2枚のフィルム写真

フィルムのメモに書かれた情報が表1である。

撮影年月日	番号	Exp.B	Exp. E	Exp.
19740524	KJF 74020	21h15m00s	21h25m00s	10m
19740524	KJF 74021	21h31m00s	21h41m00s	10m

表1

今回、発見したフィルムに書かれた情報だけでは、天体写真のObjectが分からないので、小島氏にお尋ねする手紙を送っていたところ返事をいただいた。40年近い年月を経ているが小島氏はその記録を保存されていた。この写真は、1974年5月24日に東京天文台天体掃索部にツチヤという人から問い合わせがあった、 $\alpha : 2\text{h}09.9\text{m}$ 、 $\delta : -2^\circ 42'$ の未確認天体の確認写真とのことで、東京天文台天体掃索部の香西氏から「上記の位置の写真を送って欲しい!」と依頼され、撮影したものということであった。1974年5月24日は、関東地方は曇天で中部地方は晴れていたそうである。図1が、小島氏が保管されていた撮影当時のフィルムの記録を送っていただいたものである。この記録には、目的天体として、obj. Tuchiyaと書かれており、感光剤はTri Xとある。使用望遠鏡は口径31cm、 $f : 5.0$ の反射望遠鏡となっている。小島氏は望遠鏡を自作しており、この反射望遠鏡の鏡もご自分で研磨されたそうである。

No.	観測記録	1974-5-24 (金)	観測所	(一色)・吉良			
番号	目的天体	撮影時刻	露出	感光剤	位置	時刻・UT	備考
KJF 74020	obj. Tuckiya	21 ^h 45.00 ~ 21 ^h 45.00	10 ^s	14-X	72°07.9 2°02'	21.51384	
74021	"	~				21.51384	
		~					
		~					
KJF 74020	obj. Tuckiya	21 ^h 43.00 ~ 21 ^h 43.00			72°07.9 2°02'	21.51384	
※ KJF 74021 の撮影後、念のため広角カメラで、その付近を撮影しておきましたが、その後不要となりましたので廃棄をしました。							
◎ ガイド星架内図							
◎ 参考事項							
◎ 使用器械 口径 ^{cm} f. . (反射) ・ 屈折 ・ Schmidt ・							

使用望遠鏡ですが 反射 口径 31.0cm f. 5.0 自作の鏡面
 屈折 口径 4.7cm f. 4.5 写真店の写場用レンズ (広角)
 赤道儀は運転時計も含めて、全て自作のヨーク型です。

図 1

このフィルムは未確認天体の確認のために撮影されたものであるが、この確認写真の結果は、新彗星は写っていなかったようである。1975・76 年には関氏が 1974d を検出した以外に日本人による新彗星の発見はなかったようである。写真 2 が、KJF 74020 の中心部の拡大写真である。

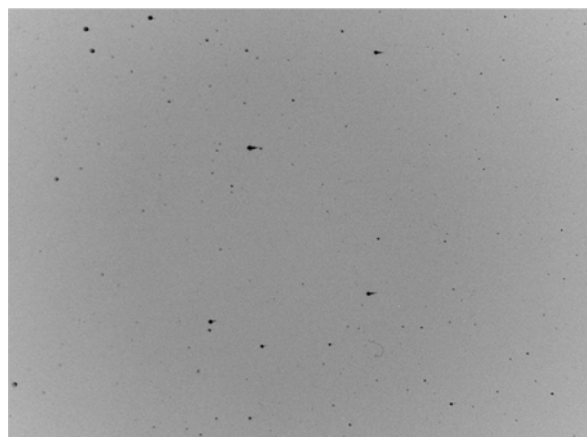


写真 2

これをさらに拡大したものが写真3である。

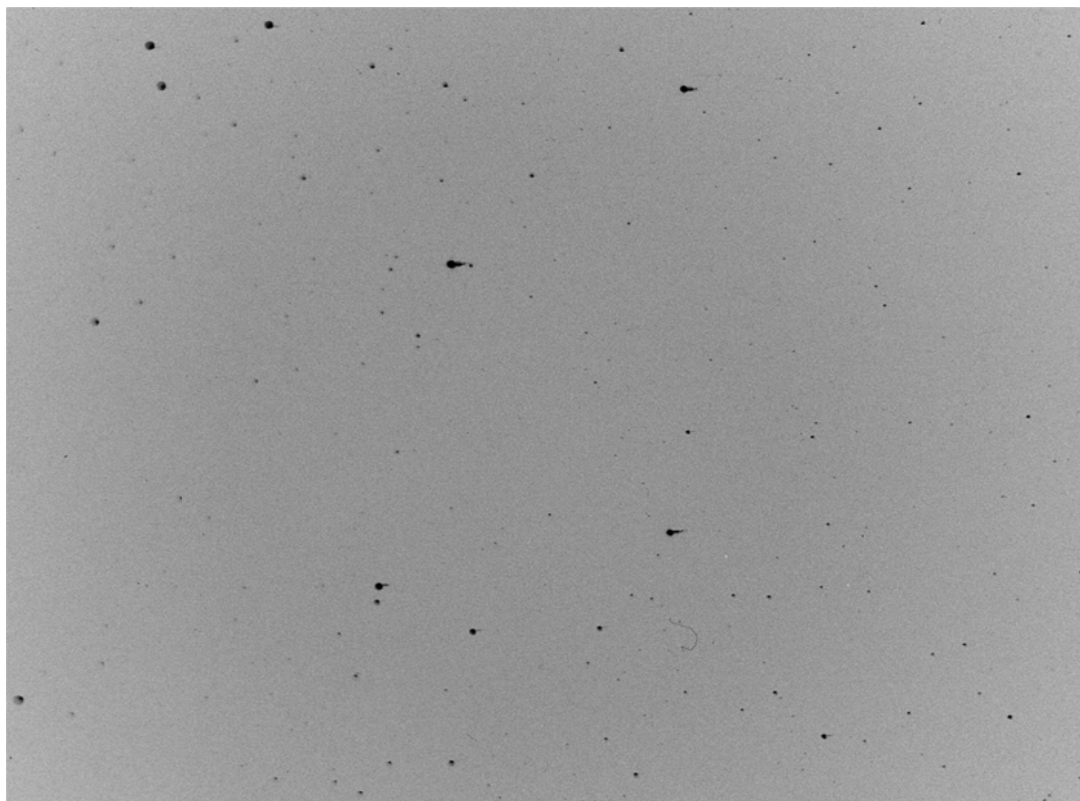


写真3

写真3を見ると、写野の中のいくつかの星像に尻尾のようなものが付いていることがわかる。なぜこのような星像になったのであろうか？これについては小島氏は何もコメントされていなかった。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp